

E-6 瀬戸内海島しょ部の生活環境に関する基礎調査 —愛媛県ゾーンの場合—

桃山学院短大 ○佐々木ひろみ 松山東雲短大 大原早苗 田中幸亮
宮内貞子 広島女学院大短大 富士田亮子

(5) 住民意識

目的 (5) では島に対する住民の愛着意識や、将来の地域像を浮きぼりにすることによって、住民意識を明らかにする。これは、我国の従来の住民不在の地域計画から、住民参加による計画づくり、町づくりのあり方を追求するための基礎的研究をなすものである。

方法 上記の目的を達成する方法として、アンケート調査法及び聴き取り調査法を併用。集計については、年齢、性別、学歴、職業、居住年数、島外生活経験の有無、住宅の所有形態、集落等とのクロスを取り、住民意識に相異をもたらす要因を明らかにした。

結果 島に対する住民の愛着意識は極めて高い。その大きな理由として、持家居住者が圧倒的に多く、居住年数も30年以上にわたる居住者が高率を占めていることが考えられる。将来の地域像に関しては、集落特性に影響されるところが大きい。しかしわからないと答えたり、無記入者が非常に多いことから判断して、住民の多くが将来の地域の発展のあり方に対して、具体的なイメージを持ち得ていないようである。愛着意識が極めて高いにもかかわらず、将来の地域像に対しては住民の無関心が目立つと言えよう。これはすぐさま住民意識の低さに結びつけられるべきではなく、計画内容が住民にオープンにされにくいところにも原因があると考えられる。